

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
船橋情報ビジネス専門学校		昭和56年9月22日		鳥居高之		〒 273-0005 (住所) 千葉県船橋市本町7-12-17 (電話) 047-425-1051		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人三橋学園		昭和41年9月21日		鳥居高之		〒 273-0005 (住所) 千葉県船橋市本町7-12-17 (電話) 047-425-1051		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		Webクリエイター科		平成25(2013)年度		平成27(2015)年度	
学科の目的		Web構築に必要なデジタルデザインツールとプログラム言語の習得とWeb構築技術で企業に役立つ人材の育成を目的とします。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		様々なアプリケーションを使いWeb制作技術とデザインの知識を学び、Web業界で活躍するプロのクリエイターの添削指導のもと、より高度なWeb技術を身に付けられます。 R5在籍学生資格実績 情報処理技術者試験レベル1:ITパスポート試験1名。サーティファイ Webクリエイター能力認定試験/HTML5 スタンダード73名。文部科学省後援色彩検定 2級4名、3級65名。文部科学省後援 ビジネス能力検定 ジョブパス 3級67名。文部科学省後援 情報検定 情報デザイン試験 初級71名。ビジネス著作権検定						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 62 単位	単位時間 50 単位	単位時間 62 単位	単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位
	生徒総定員		生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率		
70 人		78 人		0 人	0 %	3 %		
就職等の状況		■卒業者数 (C)		38 人				
		■就職希望者数 (D)		36 人				
		■就職者数 (E)		36 人				
		■地元就職者数 (F)		9 人				
		■就職率 (E/D)		100 %				
		■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		25 %				
		■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		95 %				
		■進学者数		0 人				
		■その他						
		(令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) Webデザイナー、システムエンジニア、プログラマ、事務・営業・販売								
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 受審年月: 平成28年3月 評価結果を掲載したホームページURL https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/disclosure/hyouka_dai3.pdf						
当該学科のホームページURL		https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/course_w.html						
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定)						
		総授業時数		0 単位時間				
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間				
		うち必修授業時数		単位時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間				
		(B: 単位数による算定)						
		総単位数		62 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		30 単位						
うち必修単位数		62 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		30 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを連算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人				
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人				
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人				
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人				
		⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人				
		計		2 人				
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
IT業界の動向や人材ニーズを、IT企業、システム利用者、地域IT業界団体から成る教育課程編成委員会から直接情報を得て把握する。あわせて卒業生の就職先企業からの要望のアンケートも参考とする。また学校の自己評価および学校関係者評価、ならびに全生徒に対し学期末ごとに実施される授業理解度調査からも教育課程への課題を得る。これらを総合してより実践的に情報システム構築を行うシステムエンジニア、プログラマの育成をめざす教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
委員会は学校長に任命され、年に2回以上招集される。年度末に行う委員会において教務部長から次年度の教育課程の原案を受取り委員会で審議し結果を教務部長に報告する。教務部長はこの審議結果を実務的かつ専門的な観点からの助言として、それを参考に教育課程案を作成して校長決済を受ける。この教育課程案を理事会審議にかけ承認を得て次年度の正式な教育課程とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年1月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
鳥居 高之	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
杉山 剛	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
森田 秀明	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
藤崎 忠夫	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (公益情報システム株式会社 代表取締役)	R7.1.1～R7.9.30(1年)	①
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	①
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (10月、2月)

(開催日時(実績))
令和5年度第1回 令和5年10月31日 17:00～18:00 令和6年度第1回 令和6年10月31日 17:00～18:00
令和5年度第2回 令和6年 2月28日 17:00～18:00 令和6年度第2回 令和7年 2月20日 17:00～18:00 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
少し前まではホームページやWebコンテンツを作成できる人材が欲しかったが、ユーザ側でみると開発の人間よりこのツールを使うと実現できますと現場のヒアリングとアドバイス、提供が出来る人材が求められている。Webデザイン及びプログラミングが出来る人材を育成しているので就職先が事務系であれば実際有用に思えるとの意見を頂く。今後の方向性としては従来のカリキュラムを周到しつつ、就職先でユーザ側の立場であった時に、現場でのヒアリングとアドバイス、情報提供が出来るスキルセットを意識した人材の育成を検討したい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携する演習においては連携先企業等の担当者を定め、実習・演習の計画時、実施中、評価のそれぞれのフェーズにおいて科目担当の本校所属教員への助言等の連携を密に行う。評価においては連携の結果を生徒にフィードバックする。また、実習・演習を実践的なものにするために必要に応じて適宜、実習・演習の場にも企業等の担当者が参加する。尚、実習の・演習の企業と連携した計画は職員会議にて報告し承認を受ける。実施時の連携状況・連携結果についても適宜職員会議にて報告し指示を受ける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

デジタルハリウッド株式会社からはプロのデザイナーによる添削指導を受け、1部の科目ではデジタルハリウッドの教材を用いて授業を行っている。卒業制作においては、卒業制作発表会に企業担当者を招き、評価を受けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
Webデザイン概論Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	Excelの機能を実践的に習得する。	デジタルハリウッド株式会社
Webデザイン概論Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	社会人にとって必要な仕事・人間関係・マナーなどのビジネス能力の基礎を学び、実務に即した知識技能を身につける。	デジタルハリウッド株式会社
Webデザイン特論Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	就職活動の流れを知り、自己分析や企業研究ができる力を身につける 内定をいただくためにやるべきこと、必要なことを考える	デジタルハリウッド株式会社
Webデザイン特論Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事の運営により養う。就職活動に向け自己分析を行い、履歴書の作成や面接対策を行う。	デジタルハリウッド株式会社
グラフィックソフト演習Ⅰ	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	前期の内容を踏まえ、経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事(特に学園祭)の運営により養う。	デジタルハリウッド株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

デジタルハリウッド株式会社からはプロのデザイナーによる添削指導を受けている。卒業制作においては、卒業制作発表会に企業担当者を招き、評価を受けている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Photoshopでふれて楽しむ画像生成AIセミナー	連携企業等:	デジタルハリウッド株式会社
期間:	2023/8/23	対象:	Web担当教員
内容	AIによる消去と合成の精度の高さを確認、プロンプトを工夫して目的の画像にする。著作権について他		
研修名:	ChatGPTを活用したWebサイト制作を学ぼう	連携企業等:	株式会社SAMURAI
期間:	2023/9/29	対象:	Web担当教員
内容	ChatGPTでWebサイトが出来ていく過程を現役エンジニアが実演。Webライティング部分の出力、コーディング実演。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	2023年度ハラスメント研修	連携企業等:	株式会社エデュースキャリアデザイン
期間:	2023/8/8	対象:	全教職員
内容	学校現場で起こりうるハラスメントの留意点を学び、事例を考察する		
研修名:	就職年次向けの面接練習	連携企業等:	学内研修
期間:	2024/2/7	対象:	全教員
内容	・最近の就職動向について。・面接練習のデモと事前準備物。・実際にチームで分かれて実演。・意見交換会		
研修名:	2023年度AI指導者セミナー	連携企業等:	サーティファイ情報処理能力認定委員会
期間:	2023/9/29	対象:	全教職員
内容	生成AIとこれからの教育現場「生成AIを中心とした近年のAI動向」、「教育現場における生成AIの活用方法」		

(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	新しい教育を拓くオンライン授業の最前線	連携企業等: デジタルハリウッド株式会社
期間:	未定	対象: 全教員
内容	教育現場におけるオンライン教育の可能性を探る	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	学校コンプライアンス対策講座	連携企業等: 株式会社エデュースキャリアデザイン
期間:	2024/8/6	対象: 全教職員
内容	1.ハラスメントの類型 2.近年の学校でのハラスメント事例 3.モデルケースによる考察 5.ハラスメントの初期対応	
研修名:	退学を減らすためには	連携企業等: 学校内
期間:	未定	対象: 全教員
内容	退学を減らすため、「FJBの価値」「SHR運営」「学生や親御さんとの電話」「覚悟」の観点から考察する。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
本校の学校関係者評価委員は、評価の透明性が保てるよう全員本校の教職員以外で無償化にて参加とし、特に企業等のメンバーは職業実践的専門的評価に資する就職先業界から選出する。委員会は学校自己評価、学校の現状に関する関連資料等を踏まえて、学校自己評価の内容、今後の改善方策、実際の取組、各々が適切であるか審議し助言を行う。この助言は、学校運営、教育活動の改善と自己評価の改善方策の検討において活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。
(3)学校関係者評価結果の活用状況
全体の評価を通じて特に不適とする点は委員会では指摘されなかった。教育活動及び学生支援、学修の成果について確認がなされた。R5年度は単位制に切り替え、授業が柔軟に組み替えることができる点。従来の「必修」「必修選択」に加えて「任意選択」科目を導入した点。更に学科横断の授業を採用しようと考えている点を説明した。各学科の少数ニーズを纏めてひとつの教科を成立させる試みについて評価された。委員から課題とされた少子化による競争激化、留学生の受け入れ、グローバル化については状況を説明し、委員から助言をいただく。今後の課題として対応策を検討していくこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年1月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
藤崎 忠夫	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (公益情報システム株式会社 代表取締役)	R7.1.1～R7.9.30(1年)	業界団体 等委員
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	経済団体 委員
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: URL:https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/disclosure/hyouka_kankeisha.pdf
公表時期: 令和6年11月30日予定

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の基本情報、教育活動や学校運営についてホームページにて情報公開し広く周知する。情報公開に当たり情報の信頼度を保つため、内容変更が発生する都度、正確性、利便性等の確認の上、広報部長の承認を得る。具体的な内容は、学校の指導方針・人材養成目的、高等学校等の進路指導のための情報、職業実践専門的な実習・就職指導等の企業連携に関する情報、教育活動の成果・実績、教育プログラム等とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要と沿革、年間スケジュール
(2)各学科等の教育	入学案内、学科案内、資格情報、就職情報、主な就職先一覧
(3)教職員	教職員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業向け研修講座、IT設備、就職情報
(5)様々な教育活動・教育環境	年間スケジュール、活動紹介
(6)学生の生活支援	キャンパスライフ、学費支援
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧、学費支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	学校評価、学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/index.html>

公表時期: 令和6年11月30日予定

授業科目等の概要

	(工業専門課程 Webクリエイター科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			Web制作演習 I	HTMLとCSSの基礎知識と、テキストエディタ によるコーディング作業を学習する。	1 前	108	6	○	△	△	○		○		
2	○			Web制作演習 II	HTMLとCSSの基礎知識と、テキストエディタ によるコーディング作業を学習する。	1 後	72	4	○	△	△	○		○		
3	○			Webアプリケーション演習 I	VisualStudioCodeを使って、JavaScriptの 知識と技術を習得し、活用できるようにし ます。	1 前	36	2	△	○	△	○		○		
4	○			Webアプリケーション演習 II	VisualStudioCodeを使って、JavaScriptの 知識と技術を習得し、活用できるようにし ます。	1 後	72	4	△	○	△	○		○		
5	○			Webデザイン 概論 I	Webデザインの基礎知識や、グラフィックア プリケーションと制作技術について学ぶ。	1 前	36	2	○	△		○			○	○
6	○			Webデザイン 概論 II	Illustrator・Photoshopの応用技術、Webリ テラシー、HTML・CSSの現場における技術に ついて演習を交えて学ぶ。	1 後	36	2	○	△		○			○	○
7	○			グラフィック ソフト演習 I	デジタルハリウッドの教材を使用し、 IllustratorとPhotoshopによる画像処理を 学ぶ。	1 前	72	4	△	○	△	○			○	○
8	○			グラフィック ソフト演習 II	デジタルハリウッドの教材をから学んだ技 術を生かし制作する。	1 後	72	4	△	○	△	○			○	○
9	○			DTP I	印刷についての基礎知識を身につける。	1 前	36	2	○	△		○			○	
10	○			DTP II	印刷についてのより高度な知識を身につけ る。	1 後	36	2	○	△		○			○	
11	○			情報基礎	各検定試験の合格に向け、検定の対策を実施 する。 また、小テストなどを都度実施する ことで振り返りを行えるようにする。	1 前	72	4	○			○		○		
12	○			情報デザイン	色彩検定3級の内容を学ぶことにより色彩の 知識を身につける。 情報をデザインする技 術を学び、制作物のレイアウトや表現に役立 てる。	1 後	72	4	○			○		○		
13	○			動画制作演習	デジタルハリウッドの教材を利用して PremiereProとAfterEffectsによる動画制作 技術を磨く。	1 前	36	2	△	○	△	○		○		○
14	○			Office演習 I	表計算ソフトExcelを基礎から学び、資格の 取得を目指す	1 前	36	2	○	△		○			○	
15	○			Office演習 II	表計算ソフトExcelを基礎から学び、資格の 取得を目指す	1 後	36	2	△	○		○			○	

(工業専門課程 Webクリエイター科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
16	○			Web制作演習 応用	1年次に学んだHTML、CSSの知識を深め、レスポンス対応や現場で使われている技術を学ぶ。	2 前	108	6	△	○	△	○		○		
17	○			DTP応用	印刷についての高度な知識と技術を身につける。	2 前	36	2	○	△		○			○	
18	○			卒業制作	Web制作のワークフローに沿って、グループでWebサイトを構築する。	2 後	216	12	△	○	△	○		○		○
19	○			Webデザイン 特論Ⅰ	マーケティング、制作工程分析、調査・分析、SEO、アクセシビリティなどを、演習を交えながら学ぶ。	2 前	36	2	○	△		○			○	○
20	○			Webデザイン 特論Ⅱ	マーケティング、制作工程分析、調査・分析、SEO、アクセシビリティなどを、演習を交えながら学ぶ。	2 後	36	2	○	△		○			○	○
21	○			グラフィック ソフト演習応 用Ⅰ	Photoshop、Illustratorなどのグラフィックソフトを使い、作品を制作する。	2 前	36	2	△	○	△	○			○	
22	○			グラフィック ソフト演習応 用Ⅱ	Photoshop、Illustratorなどのグラフィックソフトを使い、作品を制作する。	2 後	36	2	△	○	△	○			○	
23	○			HTML5ゲーム 制作演習Ⅰ	HTML5ベースの簡単なコンピューターゲームの作成	2 前	36	2	△	○	△	○		○		
24	○			HTML5ゲーム 制作演習Ⅱ	HTML5ベースの簡単なコンピューターゲームの作成	2 後	36	2	△	○	△	○		○		
25	○			動画制作演習 応用Ⅰ	動画に関する基礎知識とその制作法を学ぶ	2 前	36	2	△	○	△	○		○		
26	○			動画制作演習 応用Ⅱ	動画に関する知識を深めつつ より経験を重視した演習を行う	2 後	36	2	△	○	△	○		○		
27	○			Webアプ リケーション 演習応用Ⅰ	PHPによるWebアプリケーション開発を実践する。	2 前	72	4	△	○	△	○		○		
28		○		Webアプ リケーション 演習応用Ⅱ	前期で学習したPHPをさらに応用できるようにしていきます。	2 後	36	2	△	○	△	○		○		
29		○		CG・キャラ クターデザイン 演習	キャラクターを制作することによって表現力を身につける。	2 後	36	2	△	○	△	○			○	
30	○			Office演習 応用Ⅰ	・ Word：基本機能～応用機能を学ぶ ・ PowerPoint：基本機能、プレゼンテーション時に必要な機能を学ぶ	2 前	72	4	△	○		○			○	

(工業専門課程 Webクリエイター科)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
31	○			Office演習応用Ⅱ	Excelの機能を実践的に習得する。	2 後	36	2	△	○		○		○			
32	○			ビジネス実務	社会人にとって必要な仕事・人間関係・マナーなどのビジネス能力の基礎を学び、実務に即した知識技能を身につける。	1 前	36	2	○			○			○		
33	○			就職講座A	就職活動の流れを知り、自己分析や企業研究ができる力を身につける 内定をいただくためにやるべきこと、必要なことを考える	1 後	36	2	○		△	○		○			
34	○			就職講座B	就職活動に必要な、文章力・対話力・読解力・計算力など、社会に出てから必要となる基礎を学習する。 SPI・CAB・GABの試験対策をメインに行っていく。	1 後	36	2	○	△		○		○			
35	○			社会人基礎力Ⅰ	経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事の運営により養う。 就職活動に向け自己分析を行い、履歴書の作成や面接対策を行う。	1 前	36	2	○		△	○		○			
36	○			社会人基礎力Ⅱ	経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事の運営により養う。 就職活動に向け自己分析を行い、履歴書の作成や面接対策を行う。	1 後	36	2	○		△	○		○			
37	○			就職講座A応用	社会人として必要な12の基礎力について、ケーススタディとグループディスカッションを通して理解と自己評価を行う 社会の仕組みや人間の思考の基本概念から、社会人としてのあり方を考える	2 前	36	2	○		△	○		○			
38	○			社会人基礎力応用Ⅰ	社会人としての基礎力の強化を図る。	2 前	36	2	○			○		○			
39	○			社会人基礎力応用Ⅱ	前期の内容を踏まえ、経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事（特に学園祭）の運営により養う。	2 後	36	2	○	△	△	○		○			
合計					39 科目			112 (2,016) 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 62単位を取得し、全ての必修科目と選択必修科目を修得していること	1 学年の学期区分	前後 期
履修方法： 必修科目の他に選択必修、任意選択科目によって履修する講義・演習（留意事項）	1 学期の授業期間	18 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。